

# 若手従業員はどうして会社を辞めてしまうのか？

## ～若手従業員の定着率向上を目指して～

山梨県電設資材卸業協同組合(秋山仁博理事長)は去る8月、講師にSYPシステムの内田和俊氏を招き、若手従業員の定着率向上を目的とした研修会を開催した。



講師を務めた内田和俊氏

若手従業員が会社を辞める主な原因は、「指導方法」のミスマッチにあるという。若手従業員が仕事を覚えていくスタイルには、①失敗を恐れ周知な準備が必要な「分析型」、②失敗を恐

れず事前準備よりも本番を好む「行動型」、③先輩と一緒に行動することにより学ぶことを好む「観察型(模倣型)」の3つに分類される。現在の指導員(先輩社員)の中には「行動型」が多く、「いいからやれ!」という指導方法をとることが多い。それは、自分自身もそのようにして仕事を覚えてきたからである。しかし、最近の若手従業員は周到な事前準備をして仕事に取り組む慎重な「分析型」が多く、先輩社員と若手従業員の種類の違いから指導方法が合わず、辞めてしまう若手従業員が多いという。そのミスマッチを解消するために、若手従業員に合わせた指導方法をとる必要があるという。

秋山理事長は「企業が若手従業員を採用することは、先行投資と同じ意味を持つ。若手従業員は採



真剣に話を聞く組合員

用時の生産性はほとんど無いものの、給与の支払は必ず発生する。その若手従業員の定着率向上は、企業の投資リスクを補完する意味では重要な課題であり、今後も指導方法など工夫をしながら若手従業員が意欲を持って働ける環境づくりを行っていきたい。」と述べていた。